

ワールドカップサッカー・南アフリカ大会と国民イメージ(2): 国民イメージの変化の規定因の検討¹⁾²⁾

The 2010 FIFA World Cup in South Africa and national images (2):
An exploration of factors affecting change of national images

佐久間 勲*・日吉 昭彦**

Isao SAKUMA, Akihiko HIYOSHI

要旨:本研究の目的は、ワールドカップサッカー・南アフリカ大会の前後で見られる国民イメージの変化を規定する要因を検討することであった。具体的には試合中継と試合結果に関するニュース番組の視聴が国民イメージの変化に及ぼす影響を検討した。647名の日本人大学生がパネル調査に参加した。調査対象者は大会の約1ヶ月前の5月と大会終了直後の7月中旬に複数の国民に対するイメージを回答した。加えて、7月中旬に調査では国民イメージの測定の対象国民となった代表の試合中継、およびそれらの代表の試合結果に関するニュース番組の視聴の有無についても回答した。重回帰分析の結果、試合中継と試合結果に関するニュース番組の視聴は、いくつかの国民イメージの変化を有意に予測していた。ただし試合中継の視聴と比較するとニュース番組の視聴の方が多くの国民イメージの変化を予測していた。以上の結果は、国際的スポーツイベントに関するテレビ番組の視聴が国民イメージの変化を規定する要因となることを示唆するものであった。

キーワード: 国際的スポーツイベント, 国民イメージ, 国民性ステレオタイプ, テレビ番組の視聴

1. 問題

本研究の目的は、2010年に開催されたワールドカップサッカー・南アフリカ大会（以下、W杯南アフリカ大会）の前後で見られる国民イメージの変化を規定する要因を検討することである。

オリンピック大会やワールドカップサッカー大会などの国際的スポーツイベントは、多くの人々が関心を持つものである。大会期間中はテレビ、新聞、インターネットなどのメディアを通して、さまざまな国民に関する情報が大量に報道される。こうした報道が、それらの国民に対す

* さくま いさお 文教大学情報学部

** ひよし あきひこ 文教大学情報学部

るイメージの形成・変化に影響する可能性は十分に予測される。

実際に多くの先行研究は、国際的スポーツイベントの開催の前後でいくつかの国民のイメージが変化することを見出している（e.g., 上瀬・萩原, 2003; Luo, Chwen, Cinzia, Hiyoshi, Hwang, & Kodama, 2010; 向田・坂元・村田・高木, 2001; 向田・坂元・高木・村田, 2007; 村田, 2007; Sakamoto, Murata, & Takaki, 1999; 佐久間・ハッ橋・李, 2010; 高木・坂元, 1991）。

こうした先行研究と同様に、佐久間・日吉（2012）は W 杯南アフリカ大会を対象とした研究を実施している。そして W 杯南アフリカ大会の前後で日本人を含む複数の国民のイメージが変化していることを見出している。さらに国民イメージの変化を規定する要因に関しても考察しているが、その考察は推測に過ぎないものであった。そこで本研究では同じデータを用いて、国民イメージの変化を規定する要因を明らかにすることを目的とする。

国民イメージの変化を規定する要因にはいくつか考えられるが、本研究で注目する要因は W 杯南アフリカ大会に関連するテレビ番組の視聴である。前述の通り、国際的スポーツイベントの開催期間中は、日本人をはじめさまざまな国民に関する大量の情報がテレビ番組のなかで放映される。こうしたテレビ番組を視聴する結果、多くの国民に対するイメージが変化することは十分に予測される。³⁾

ただしひとことでテレビ番組と言ってもいくつかの種類があるだろう。本研究ではテレビ番組として、ある国民の代表の試合中継と、それらの代表の試合結果に関するテレビのニュース番組の2つを取り上げる。これらはいずれも W 杯南アフリカ大会に関する番組である。しかし試合中継は相対的に出来事をそのまま視聴者に伝える一方で、ニュース番組は編集により偏った情報を視聴者に伝える可能性がある。⁴⁾ その結果、試合中継と比較してニュース番組は国民イメージの変化に強く影響を及ぼす可能性もあるだろう。本研究では、この可能性についても検討する。

2. 方法

(1) 調査対象者と調査の実施方法

文教大学および国際医療福祉大学で心理学関連の授業を受講している大学生を対象にパネル調査を実施した。実施時期は W 杯南アフリカ大会の約 1 ヶ月前の 2010 年 5 月 10 日から 5 月 13 日（以下、事前調査）と W 杯南アフリカ大会終了後の 2010 年 7 月 12 日から 7 月 15 日（以下、事後調査）の 2 回であった。事前調査と事後調査の両方に回答した日本人大学生は 647 人（男性 230 人、女性 417 人）であった。⁵⁾

(2) 分析に用いた主要な質問項目

① 国民イメージ

事前調査および事後調査で回答してもらった。

イメージ測定の対象国民 事前調査および事後調査ともに A、B の 2 種類の質問紙を用意した。調査対象者にはどちらか一方の質問紙に回答してもらった。それぞれの質問紙には 9 つの国民のイメージを測定するための質問項目が含まれていたが、日本人と南アフリカ人以外の国民については異なっていた。具体的には A ではポルトガル人、コートジボワール人、デンマーク人、韓国人、フランス人、ドイツ人、ブラジル人、B ではスペイン人、カメルーン人、オランダ人、北朝鮮人、メキシコ人、イタリア人、アルゼンチン人が含まれていた。さらに測定順序の影響を

排除するために、同じ種類の質問紙の中でカウンターバランスを取った。

国民イメージの測定方法 村田（2007）、佐久間他（2010）を参考にして、10個の形容詞対（7件法）で回答してもらった。10個の形容詞対のうち、「親しみやすい—親しみにくい」「好き—嫌い」はあたたかさの次元、「頭がよい—頭が悪い」「知的な—知的でない」は知的能力の次元、「身体能力が高い—身体能力が低い」「運動神経がよい—運動神経が悪い」は身体能力の次元に対応する形容詞対であった。残りの4項目（「理性的な—感情的な」「攻撃的な—攻撃的でない」「精神力が強い—精神力が弱い」「強い—弱い」）は探索的に加えた形容詞対であった。

② 試合中継の視聴

事後調査のみ回答してもらった。イメージ測定の対象国民の代表が出場した試合中継（17試合）を提示し、その試合中継の視聴の有無を回答してもらった。試合中継に関しては地上波で放送された試合に限定した。

③ 試合結果に関するテレビのニュース番組の視聴

事後調査のみ回答してもらった。②と同じ試合を提示し、テレビのニュース番組で結果をチェックした試合をすべて選択してもらった。

3. 結果

(1) 得点の算出

最初に、イメージ測定の対象国民ごとに3つの次元のイメージに関する得点を算出した。具体的には、対象国民ごとに、3つの次元に対応する形容詞対の平均値を算出し、それぞれをあたたかさ得点、知的能力得点、身体能力得点とした。これらの3つの得点を、事前調査、事後調査の両方で算出し、次元ごとに事後調査の得点から事前調査の得点を減算したものをその次元の変化量とした。イメージ測定の対象国民ごとの3つの次元の得点（事前調査、事後調査、変化量）の平均値は表1の通りであった。各国民の3つの次元のイメージ変化量を見ると、全体としてプラスの値を示すものが多く、マイナスの値を示すものは少なかった。

イメージ測定の対象国民の代表が出場していた試合中継とニュース番組の視聴に関しては、代表ごとに、視聴した試合数、およびニュース番組で結果をチェックした試合数の合計を算出した。ただし代表によって地上波で放映された試合数が異なるため⁶⁾、視聴した試合数、およびニュース番組で結果をチェックした試合数の合計を地上波で放映された試合数で割ったものを、それぞれの代表の試合中継の視聴の程度、ニュース番組の視聴の程度とした。⁷⁾それぞれの平均値は表2の通りであった。表2を見ると、日本代表および日本代表との対戦国（カメルーン代表、デンマーク代表、オランダ代表）の試合中継とニュース番組の視聴の程度が高かった。

表1 対象国民の事前調査と事後調査の3次元のイメージ得点とその変化量の平均値（標準偏差）

対象国民	n	あたたかさ得点			知的能力得点			身体能力得点		
		事前調査	事後調査	変化量	事前調査	事後調査	変化量	事前調査	事後調査	変化量
日本人	636-638	5.05 (1.28)	5.23 (1.26)	0.19 (1.14)	4.24 (.95)	4.45 (1.00)	0.21 (.97)	3.59 (.92)	3.86 (.97)	0.27 (1.01)
南アフリカ人	631	3.91 (.81)	4.04 (.86)	0.13 (.88)	3.57 (.93)	3.56 (.87)	-0.01 (.97)	5.57 (1.23)	5.31 (1.19)	-0.27 (1.39)
ポルトガル人	275-276	4.15 (.56)	4.27 (.77)	0.11 (.81)	4.16 (.55)	4.18 (.68)	0.02 (.78)	4.41 (.82)	4.56 (.98)	0.15 (.99)
コートジボワール人	273-274	3.98 (.65)	3.93 (.65)	-0.05 (.71)	3.86 (.57)	3.83 (.77)	-0.03 (.79)	4.35 (.90)	4.46 (.99)	0.11 (.99)
デンマーク人	275-276	4.22 (.61)	4.35 (.78)	0.13 (.80)	4.31 (.66)	4.43 (.72)	0.12 (.83)	4.15 (.67)	4.42 (.85)	0.27 (1.03)
韓国人	278-279	3.95 (1.18)	4.04 (1.19)	0.08 (.96)	4.23 (1.01)	4.25 (1.01)	0.03 (.86)	4.00 (.79)	4.18 (.80)	0.18 (1.00)
フランス人	278	4.62 (.96)	4.49 (.85)	-0.13 (.93)	4.63 (.85)	4.65 (.93)	0.02 (1.05)	4.43 (.87)	4.54 (.89)	0.11 (1.04)
ドイツ人	279-280	4.29 (.84)	4.43 (.88)	0.14 (.82)	4.62 (.93)	4.82 (.98)	0.20 (1.07)	4.43 (.81)	4.96 (1.05)	0.53 (1.10)
ブラジル人	281-282	4.19 (1.01)	4.19 (.92)	0.00 (.97)	3.72 (.79)	3.82 (.86)	0.10 (.98)	5.69 (1.22)	5.65 (1.22)	-0.03 (1.33)
スペイン人	349-351	4.53 (.84)	4.66 (.87)	0.14 (.83)	4.22 (.68)	4.42 (.78)	0.20 (.88)	4.81 (.95)	5.20 (1.13)	0.38 (1.25)
カメルーン人	348-351	4.00 (.66)	4.17 (.80)	0.17 (.85)	3.76 (.69)	3.72 (.81)	-0.04 (.87)	5.08 (1.20)	5.16 (1.14)	0.08 (1.20)
オランダ人	350-352	4.44 (.74)	4.60 (.85)	0.16 (.87)	4.33 (.71)	4.50 (.70)	0.17 (.86)	4.46 (.88)	4.95 (1.03)	0.49 (1.24)
北朝鮮人	352	2.27 (1.00)	2.46 (1.14)	0.19 (1.05)	3.37 (1.05)	3.48 (1.15)	0.11 (1.26)	3.88 (.92)	3.80 (1.03)	-0.08 (1.13)
メキシコ人	348-351	4.47 (.77)	4.42 (.75)	-0.05 (.81)	3.91 (.66)	3.91 (.72)	0.00 (.77)	4.51 (.79)	4.60 (.85)	0.09 (.93)
イタリア人	349-350	4.83 (.98)	4.86 (.97)	0.04 (.99)	4.58 (.88)	4.64 (.88)	0.06 (1.06)	4.68 (.97)	4.88 (.95)	0.20 (1.19)
アルゼンチン人	348	4.12 (.65)	4.33 (.86)	0.21 (.79)	4.02 (.64)	4.07 (.85)	0.05 (.85)	4.86 (1.02)	5.07 (1.09)	0.21 (1.15)

注1) あたたかさ得点、知的能力得点、身体能力得点の範囲は1～7。値が大きいかほど対象国民に対してあたたかい、知的能力が高い、身体能力が高いというイメージを持っていることを意味する。

注2) 変化量は、事後調査の得点から事前調査の得点を減算したもの。値がプラスである場合はイメージが肯定的な方向に変化していること、逆にマイナスの場合は否定的な方向に変化していることを意味する。

表2 対象国民の代表の試合中継の視聴の程度、ニュース番組の
視聴の程度の平均値（標準偏差）

	試合中継の 視聴の程度	ニュース番組の 視聴の程度
日本代表	.57 (.38)	.76 (.39)
南アフリカ代表	.11 (.27)	.14 (.32)
ポルトガル代表	.21 (.41)	.27 (.45)
コートジボワール代表	.11 (.31)	.15 (.36)
デンマーク代表	.50 (.50)	.77 (.42)
韓国代表	.13 (.28)	.20 (.35)
フランス代表	.09 (.29)	.14 (.35)
ドイツ代表	.19 (.31)	.31 (.36)
ブラジル代表	.11 (.31)	.15 (.36)
スペイン代表	.25 (.35)	.42 (.39)
カメルーン代表	.50 (.50)	.74 (.44)
オランダ代表	.34 (.33)	.55 (.36)
北朝鮮代表	.21 (.41)	.27 (.45)
メキシコ代表	.12 (.33)	.13 (.34)
イタリア代表	.07 (.26)	.13 (.34)
アルゼンチン代表	.19 (.39)	.24 (.43)

注) 値の範囲は0～1。値が大きいほど代表の試合中継を視聴している、もしくはテレビニュース番組を視聴していることを意味する。

(2) W杯南アフリカ大会に関するテレビ番組の視聴が国民イメージの変化に及ぼす影響

W杯南アフリカ大会に関するテレビ番組の視聴が国民イメージの変化に及ぼす影響を検討するために、重回帰分析を実施した。具体的には、対象国民の3つの次元のイメージ（あたたかさ得点、知的能力得点、身体能力得点）の変化量を従属変数、対象国民の代表の試合中継の視聴の程度、ニュース番組の視聴の程度を独立変数とした重回帰分析を実施した。このとき性別（ダミー変数）、年齢を同時に独立変数に投入し、その影響を統制した。その結果は表3の通りであった。以下、主要な独立変数である試合中継の視聴の程度と、ニュース番組の視聴の程度に分けて結果を述べる。

表3 試合中継の視聴の程度およびニュース番組の視聴の程度が国民イメージの変化に及ぼす影響（標準偏回帰係数）

対象国民	従属変数の種類	性別 (1: 男性 2: 女性)	年齢	試合中継の 視聴の程度	ニュース番組の 視聴の程度	R ²
日本人	あたたかさ得点の変化量	.013	.066	.038	.032	.007
	知的能力得点の変化量	.064	-.030	.086 ⁺	.098*	.027**
	身体能力得点の変化量	-.004	-.027	.037	.059	.008
南アフリカ人	あたたかさ得点の変化量	.033	.031	-.083 ⁺	.137**	.014 ⁺
	知的能力得点の変化量	-.048	-.010	.005	.047	.006
	身体能力得点の変化量	.107*	.058	.066	.050	.017*
ポルトガル人	あたたかさ得点の変化量	.031	-.062	.037	.071	.013
	知的能力得点の変化量	.036	-.010	.129 ⁺	-.135 ⁺	.019
	身体能力得点の変化量	.008	-.019	-.153*	.097	.019
コートジボワール人	あたたかさ得点の変化量	.175**	.003	.020	-.079	.042*
	知的能力得点の変化量	.012	.000	.042	.146*	.028
	身体能力得点の変化量	-.040	.021	-.069	-.108	.023
デンマーク人	あたたかさ得点の変化量	.014	.025	-.076	.065	.008
	知的能力得点の変化量	-.069	-.051	-.037	.040	.008
	身体能力得点の変化量	.065	-.031	.088	.087	.025
韓国人	あたたかさ得点の変化量	-.012	-.168**	-.021	.066	.032 ⁺
	知的能力得点の変化量	.002	-.095	-.020	.023	.010
	身体能力得点の変化量	-.050	-.060	-.103	.148*	.023
フランス人	あたたかさ得点の変化量	.056	-.089	-.123 ⁺	-.067	.046*
	知的能力得点の変化量	.035	-.068	-.001	-.151*	.033 ⁺
	身体能力得点の変化量	.100	-.041	.003	-.067	.021
ドイツ人	あたたかさ得点の変化量	.041	-.142*	-.088	.037	.030 ⁺
	知的能力得点の変化量	-.005	-.051	-.129 ⁺	.133 ⁺	.017
	身体能力得点の変化量	.081	.056	.009	.089	.014
ブラジル人	あたたかさ得点の変化量	.108 ⁺	-.028	.061	-.138 ⁺	.035*
	知的能力得点の変化量	.085	-.001	-.049	.116	.013
	身体能力得点の変化量	-.009	.021	.003	.056	.004
スペイン人	あたたかさ得点の変化量	.038	-.021	-.035	.099	.009
	知的能力得点の変化量	.154**	.008	.088	.061	.027 ⁺
	身体能力得点の変化量	.210***	.029	.013	.154*	.051**
カメルーン人	あたたかさ得点の変化量	.077	.008	.076	.010	.009
	知的能力得点の変化量	.002	.030	.092	.009	.009
	身体能力得点の変化量	.185**	.008	.067	-.063	.035*
オランダ人	あたたかさ得点の変化量	.072	-.042	.049	.014	.008
	知的能力得点の変化量	-.022	.066	-.109 ⁺	.062	.013
	身体能力得点の変化量	.084	-.004	-.087	.178**	.029*
北朝鮮人	あたたかさ得点の変化量	-.001	-.015	.057	.099	.020
	知的能力得点の変化量	-.026	-.045	.025	.002	.004
	身体能力得点の変化量	.027	-.005	.004	.024	.001
メキシコ人	あたたかさ得点の変化量	-.014	.047	-.066	-.002	.006
	知的能力得点の変化量	.024	.032	.036	.041	.005
	身体能力得点の変化量	-.033	.049	-.071	.115 ⁺	.014
イタリア人	あたたかさ得点の変化量	.007	.011	-.026	.001	.001
	知的能力得点の変化量	-.016	.016	.042	-.108 ⁺	.009
	身体能力得点の変化量	.173**	.041	-.053	.117 ⁺	.035*
アルゼンチン人	あたたかさ得点の変化量	.118*	-.050	.099	.185**	.067***
	知的能力得点の変化量	.051	-.060	-.087	.003	.015
	身体能力得点の変化量	.185**	-.011	.113 ⁺	.018	.037*

注) *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ⁺ $p < .10$

① 試合中継の視聴の程度

あたたかさ得点の変化量 南アフリカ人 ($\beta = -.083, t = 1.714, p < .10$)、フランス人 ($\beta = -.123, t = 1.809, p < .10$) のあたたかさ得点の変化量に及ぼす効果が有意傾向であった。いずれも、その国民の代表の試合中継を視聴するほどあたたかくないという方向にイメージが変化していた。

知的能力得点の変化量 日本人 ($\beta = .086, t = 1.887, p < .10$)、ポルトガル人 ($\beta = .129, t = 1.809, p < .10$)、ドイツ人 ($\beta = -.129, t = 1.747, p < .10$)、オランダ人 ($\beta = -.109, t = 1.725, p < .10$) の知的能力得点の変化量に及ぼす効果が有意または有意傾向であった。日本人、ポルトガル人については、代表の試合中継を視聴するほど知的能力が高いという方向にイメージが変化する一方で、ドイツ人、オランダ人については、知的能力が低いという方向にイメージが変化していた。

身体能力得点の変化量 ポルトガル人 ($\beta = -.153, t = 2.145, p < .05$)、アルゼンチン人 ($\beta = .113, t = 1.688, p < .10$) の身体能力得点の変化量に及ぼす効果が有意または有意傾向であった。アルゼンチン人については、代表の試合中継を視聴するほど身体能力が高いという方向にイメージが変化する一方で、ポルトガル人については、代表の試合中継を視聴するほど身体能力が低いという方向にイメージが変化していた。

② ニュース番組の視聴の程度

あたたかさ得点の変化量 南アフリカ人 ($\beta = .137, t = 2.801, p < .01$)、ブラジル人 ($\beta = -.138, t = 1.954, p < .10$)、アルゼンチン人 ($\beta = .185, t = 2.825, p < .01$) のあたたかさ得点の変化量に及ぼす効果が有意または有意傾向であった。南アフリカ人、アルゼンチン人については、それらの国民の代表の試合結果をチェックするためにニュース番組を視聴するほどあたたかい方向にイメージが変化する一方で、ブラジル人については、あたたかくないという方向にイメージが変化していた。

知的能力得点の変化量 日本人 ($\beta = .098, t = 2.183, p < .05$)、ポルトガル人 ($\beta = -.135, t = 1.899, p < .10$)、コートジボワール人 ($\beta = .146, t = 2.020, p < .05$)、フランス人 ($\beta = -.151, t = 2.189, p < .05$)、ドイツ人 ($\beta = .133, t = 1.785, p < .10$)、イタリア人 ($\beta = -.108, t = 1.662, p < .10$) の知的能力得点の変化量に及ぼす影響が有意または有意傾向であった。日本人、コートジボワール人、ドイツ人については、それらの国民の代表の試合結果をチェックするためにニュース番組を視聴するほど知的能力が高いという方向にイメージが変化する一方で、ポルトガル人、フランス人、イタリア人については、知的能力が低いという方向にイメージが変化していた。

身体能力得点の変化量 韓国人 ($\beta = .148, t = 1.975, p < .05$)、スペイン人 ($\beta = .154, t = 2.390, p < .05$)、オランダ人 ($\beta = .178, t = 2.877, p < .01$)、メキシコ人 ($\beta = .115, t = 1.836, p < .10$)、イタリア人 ($\beta = .117, t = 1.829, p < .10$) の身体能力得点の変化量に及ぼす効果が有意または有意傾向であった。いずれの国民についても、それらの国民の代表の試合結果をチェックするためにニュース番組を視聴するほど身体能力が高いという方向にイメージが変化していた。

4. 考 察

本研究の目的は、W杯南アフリカ大会の前後で見られる国民イメージの変化を規定する要因を検討することであった。具体的にはW杯南アフリカ大会に関するテレビ番組（各国代表の試合中継、試合結果に関するテレビのニュース番組）の視聴が国民イメージの変化に及ぼす影響を検討することであった。

その結果、一部の国民に限定されるものの、ある国民の代表の試合中継および試合結果に関するニュース番組の視聴は、その国民のイメージの変化量を有意に予測していた。さらに単純接触効果 (Zajonc, 1968) のように、ある国 (民) の代表の試合中継を見たり試合結果に関してチェックするためにニュース番組を視聴したりするほど、その国民に対するイメージが肯定的な方向に変化するだけでなく、対象となる国民や国民イメージの次元によっては、ある国民に対するイメージは否定的な方向に変化していた。これらの結果は、テレビ番組の視聴が国民イメージを肯定的に変化させるか否定的に変化させるかという点については一概に言えないものの、少なくとも国民イメージの変化を規定する要因であることを示唆している。

試合中継の視聴の程度とニュース番組の視聴の程度が国民イメージの変化に及ぼす影響について、重回帰分析の結果のうち有意 (有意傾向) である標準偏回帰係数を見てみると、ニュース番組の視聴の方が、有意 (有意傾向) である係数が多かった。試合中継と比較するとニュース番組は編集や構成を通してある国民の特徴が強調された (ステレオタイプ化された) 内容で放送され、それが国民イメージの変化に強く影響した可能性が考えられるだろう。

次元別に見ると、試合中継、ニュース番組を問わず、あたたかさ得点と比較して、知的能力得点、身体能力得点の変化量に及ぼす有意な効果が多かった。サッカーに関連する番組の中では、「個人技」「運動神経」などの身体能力に関してはもちろんのこと、「頭脳プレー」「作戦」「戦術」などの知的能力に関しての言及も多い。こうした言及が身体能力だけではなく知的能力のイメージをより多く変化させた原因であると考えられる。

興味深い結果としては、同じ番組の視聴が次元によって逆の影響を及ぼしているケースが見られたことである。たとえばイタリア人については、ニュース番組を視聴するほど身体能力は高い方向に変化する一方で、知的能力は低い方向に変化していた。スポーツに関する報道では、しばしばある国民に対して「身体能力が高い」という肯定的な表現がなされることがあるが、同時にこうした表現にはそれらの国民に対する「知的能力が低い」という評価が含意されていることが指摘されている (山本, 2002)。本研究のイタリア人に対するイメージの変化の結果に関しても、この指摘と一致したものであるかもしれない。

最後に本研究の問題点と今後の課題について述べる。第一に、重回帰分析の結果の解釈である。重回帰分析の結果、テレビ視聴が国民イメージの変化量を有意に予測していた。しかし、全体的に重回帰分析のモデルの決定係数は小さかった。本研究で見出されたテレビ視聴の効果に関して別の国際的スポーツイベントでも検討し、その効果が再現されるか確認する必要がある。第二に、テレビ番組の内容の問題である。重回帰分析の結果、テレビ視聴は国民イメージの変化を規定する要因であることを示唆する結果を見出した。しかし、実際の番組内容に応じて国民イメージが変化しているかどうかについては明らかではない。今後の研究ではテレビ番組の内容分析を同時に実施し、テレビ番組の内容と国民イメージの変化量に関係が見られるか実証的に検討する必要がある。

引用文献

- 上瀬 由美子・萩原 滋 (2003). ワールドカップによる韓国・韓国人イメージの変化 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 57, 111-124.
- 加藤徹郎 (2009). 筋書きのないドラマの「語り」を探る—スポーツダイジェスト番組『熱闘甲子園』における物語論— 藤田真文・岡井崇之 (編) プロセスが見えるメディア分析入門—コンテンツから日常を問い直す 世界思想社 pp.11-36.
- Luo, Q., Chwen, C. C., Cinzia, C., Hiyoshi, A., Hwang, Y., & Kodama, M. (2010). Attitudes toward China before and after the Beijing Olympics. *The International Journal of the History of Sport*, 27, 1419-1432.
- 向田 久美子・坂元 章・村田光二・高木栄作 (2001). アトランタ・オリンピックと外国イメージの変化 社会心理学研究, 16, 159-169.
- 向田 久美子・坂元 章・高木栄作・村田光二 (2007). オリンピック報道は外国人・日本人イメージにどのような影響を与えてきたか—シドニー・オリンピックを中心に— 人間文化創成科学論叢 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科), 10, 297-307.
- 村田光二 (2007). アテネ・オリンピック報道が日本人・外国人イメージに及ぼす影響 平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書
- Sakamoto, A., Murata, K., & Takaki, E. (1999). The Barcelona Olympics and the perception of foreign nations: A panel study of Japanese university students. *Journal of Sport Behavior*, 22, 260-278.
- 佐久間 勲・日吉昭彦 (2012). ワールドカップサッカー・南アフリカ大会と国民イメージ (1): 国民イメージの変化 情報研究 (文教大学情報学部), 47, 1-11.
- 佐久間 勲・日吉昭彦 (2013). ロンドン・オリンピック大会と国民イメージ 2013 年社会情報学会 (SSI) 学会大会研究発表論文集, 29-32.
- 佐久間 勲・ハッ橋 武明・李 岩梅 (2010). 北京オリンピック大会と国民イメージ (1) 情報研究 (文教大学情報学部), 42, 23-30.
- 高木栄作・坂元 章 (1991). ソウルオリンピックによる外国イメージの変化—大学生のパネル調査— 社会心理学研究, 6, 98-111.
- 山本敦久 (2002). 見えるもの／見えないもの—W 杯、メディア、「人種」 月刊言語, 3 (113), 54-57.
- Zajonc, R. B. (1968). The attitudinal effects of mere exposure. *Journal of Personality and Social Psychology Monographs*, 9, 1-27.

註

- 1) 本研究は、日本心理学会第 75 回大会にて発表された内容を新たな視点から再分析したものである。
- 2) 本研究は、2010 年度文教大学競争的教育研究支援資金による研究成果の一部である。
- 3) いくつかの先行研究は、テレビに限定していないものの、ある国 (民) に関するメディア報道に接触するほど、その国民に対するイメージは肯定的になることを見出している (向田他, 2001; 向田他, 2007; 佐久間・日吉, 2013)。
- 4) 同様の議論は加藤 (2009) にも見られる。
- 5) 日本人大学生と外国人留学生の間には国民イメージに差異があると考え、本研究では外国人留学生のデータを除外して分析を実施した。
- 6) 地上波で放映されたそれぞれの代表の試合数は、日本代表が 4 試合、韓国代表、スペイン代表、オランダ代表が 3 試合、南アフリカ代表、ドイツ代表が 2 試合、それ以外の代表は 1 試合であった。
- 7) 代表ごとに試合中継の視聴の程度とニュース番組の視聴の相関係数を算出したところ .29 ~ .58 であった。